

令和5年度 第2回小浜市総合教育会議 会議録

開催日時		令和6年2月28日(水)	開会 14:00 閉会 16:00
開催場所		市庁舎4階 401会議室	
出席者	構成員	小浜市長 松崎 晃治 小浜市教育委員会 教育長 窪田 光宏 同職務代理者 上田 俊彦 委員 村上 郁子 委員 桂田理津子 委員 坂下 貴洋	
	事務局	教育部長 谷 義幸 教育総務課長 内田 靖彦 生涯学習スポーツ課長 日比野 伸彦 教育総務課 GL 松宮 克行、井上 恵理 指導主事 上林一基 ICT支援員 古田宗吉 生涯学習スポーツ課 GL 栗原 直希、藤本 倫子、小笠原 房子	
<p><b>1 開会</b></p> <p>事務局 ただ今から令和5年度第2回小浜市総合教育会議を開会します。          なお、本日の会議終了は、午後4時を予定していますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。</p> <p><b>2 議事</b></p> <p>事務局 それでは、早速、協議事項に入らせていただきます。          議長につきましては、本会議の設置者であります松崎市長にお願いいたします。</p> <p>市長 まず、開会にあたりまして一言挨拶させていただきます。本日は、総合教育会議を招集させていただきましたところ、教育委員の皆様には公私ご多忙の中お集まりいただき、誠にありがとうございます。日頃は、本市教育行政の推進にご尽力を賜り、厚くお礼申し上げます。</p> <p>さて、本日は令和5年度第2回総合教育会議として、「小浜市教育振興基本計画の具体的取り組み状況」および「休日の学校部活動の地域移行」について事務局から報告の後、本市教育行政の課題1点を協議することとなっています。協議事項は「学校教育DXについて」でございます。協議内容につきましては、市教委の考えがある中で、課題解決に向け、共通理解を図りたいと考えております。また、協議事項以外のことでも、教育委員の皆様と活発に意見を交わし、本市の教育行政がより良いものとなるよう努めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。</p>			

## 令和5年度 第2回小浜市総合教育会議 会議録

### (1) 1. 小浜市教育振興基本計画の具体的取組み状況について（報告）

市長 それでは、報告事項1「小浜市教育振興基本計画の具体的取組み状況」について、事務局から説明をお願いします。

＜教育総務課説明＞

＜生涯学習スポーツ課説明＞

市長 ただいま事務局から説明がありましたが、これにつきましてご質問があれば、挙手のうえご発言をお願いします。

上田職務代理者 P4の進捗状況ですが、箸の持ち方だけが”達成困難”となっています。食のまちづくりを推進する小浜市が、基本的な箸の持ち方がうまくできていないというのは、いかがなものかと感じます。今後の取り組みはどうされるのでしょうか。家庭教育として幼児の間から取り組むことが大事だと思いますが。

事務局 箸の持ち方については、小中学校において栄養教諭を中心に取り組んでいます。評価については、児童生徒に「自分ができたかどうか」を調査した結果をもとにしており、数値目標に対して達成割合をみると、かけ離れている状況にあります。近年は劇的な変化は見られませんが、継続して取り組んでいるところです。今後は、特に小学生は発達段階でもあるので、保育園との連携も含めて進めていかないと考えています。

上田職務代理者 PTA総会や保育園の保護者会などで啓発を行い、家庭教育で指導することが効果的だと思います。

事務局 学校の中だけでは限られるので、家庭や外部機関等とも連携しながら、今後進めていきたいと思っています。

上田職務代理者 文化会館の耐震補強工事を行うこととなっていますが、文化協会を中心に、教育の複合施設として新しい文化施設の建設に向けて署名活動をしていると聞いています。今後どうしていくのかお考えはありますか。

事務局 文化協会が署名活動をされていることは聞いており、3月に市長報告に来られる予定となっています。耐震化については、小学校、公民館、体育施設、文化施設と計画的に進めており、今後も計画に基づき実施する予定です。新築となると、場所の選定から必要であるため、相当な時間を要します。耐震補強工事を進めながら市民の声を聴き、検討していきたいと考えております。

市長 文化会館の天井が耐震基準に合っておらず、このままの状態で使用していくと、万が一、天井の落下などがあると危険ですので、耐震化は必要と考えています。署名活動の趣旨についてはまだ把握していない状況です。報告に来られたときに詳細を

伺いたいと思っています。建て替えとなると予算や場所の決定等、10年ぐらいの計画で取り組む必要があります、非常に大きな話になってきます。市の財源だけでは建てられませんので、国や県の補助制度の活用も検討しなければなりません。文化会館の耐震化は、それまでの期間、安全に施設を使用するために必要だと思います。私の考えとしては、文化施設については市民レベルで委員会のような組織を立ち上げ、様々なことを話し合ってもらふ必要があると思います。今後、文化協会の考えも聴きながら進めていかなければならないと考えております。

箸の持ち方については、(株)せいわの木越社長が自ら保育園に出向いて指導していただいています。木越社長によると、そう簡単に正しく箸を持てるようになるものではないが、継続して指導していることで、少しずつ正しく持てる子が増えてきているそうです。

教育長 以前は、食の教育推進委員会において児童生徒の食の自立化を目指し、月1回は食事作りをして、子どもたちが将来一人暮らしをしたときに自炊できる力をつけていこうという取り組みをしていましたが、家庭での負担が大きく保護者から賛否両論がありました。このように、家庭教育については、学校は保護者への啓発は行いますが、実施については各家庭の状況等により限界があります。このようなことを踏まえ、学校の中で箸の持ち方について取り組んでいますが、なかなかうまくはなりません。しかし、達成率は低いですが、過去に比べると少しずつ正しい箸の持ち方ができる子どもは増えてきています。市民からも「魚をきれいに食べることができる子どもを育ててほしい」という熱い思いも頂戴しています。結果としては達成困難な状況ではありますが、手を抜いているわけではありません。保護者へのアプローチを含め、今後もしっかり取り組んでいきたいと考えております。

桂田委員 自分の4番目の子は箸の持ち方を教えてもなかなかうまく持てず、教えるのに苦労しました。持ち方を矯正するような箸もあるので、そういうものを活用することもいいと思います。

村上委員 耐震化についてですが、元旦に起こった地震の時に津波警報が出たことから、西津や雲浜から県立大学へ向かう避難者が多く、道が渋滞していました。各地区にも防災拠点として公民館等がありますが、かなり老朽化しています。建替えは難しいと思いますが、今後どのように維持していくのでしょうか。

市長 公民館は耐震化がようやく終わり、令和5年度にコミュニティセンター化したところですが。コミュニティセンターは津波を想定して建てたものではなく、津波が到達しない村部にもあります。今までは台風や水害をメインに避難計画が立てられており、最近では台風が到達する日時や雨量などが事前に予測できるため、計画的に避難していただくことができます。しかし、地震や津波はいつ来るかを予測すること

は非常に難しいです。現在、新しいハザードマップを制作する予定がありますので、地震・津波を想定したものにしたいたいと考えております。コミュニティセンターは耐震化が終わりましたので、しばらくは使用していきませんが、建て替える時には、そういうことも考慮していくことになると思います。

教育長 今年度の学校教育方針の中心に、「ふるさとを愛し誇りに思う心を育む」ということを掲げており、これは子どもたちの全ての学びの根幹になると捉えております。思いは一つで、根なし草の子どもをつくらないことです。どういうことかと言いますと、日本全国どこで働いていても、ふるさと小浜を忘れないということです。今年の小浜中学校の学習発表会の中で、子ども達から非常に魅力的で刺激的な言葉がありました。それは、「自分は“プレーヤー”として生きるか、それとも“サポーター”として生きるか」という言葉です。例えば、「看護師は日本全国どこでも働けますが、どこで働くかを選択しようとする時に、ふるさと小浜を選択肢に入れたうえで自分なりの決断をしていくことが大切だし、グローバルに世界を駆け回って活躍している人でも“サポーター”として十分にふるさとに貢献していくことはできる」と述べていました。非常に嬉しく思いました。以前から、中学校の総合的な学習は生き方学習だと言っております。小学校低学年の時には、とにかくふるさとが大好きで生まれ育った地域を誇りに思う心を育み、高学年や中学校において課題を探究していく中で、自分はどう生きるのかを自分事として考え、ふるさととどう関わっていくのか、どういう参加の仕方をするのかということを考えてほしい。そして、高校の探究学習において、自分の生き方がどれだけそこに反映されているかということが大事になってくると思います。そういう意味で第一に掲げておりますし、実際に良い学びをしてきていることは評価できると思っております。

(1) 2. 休日の学校部活動の地域移行について (報告)

市長 それでは、報告事項2「休日の学校部活動の地域移行」について事務局から説明をお願いします。

<生涯学習スポーツ課説明>

坂下委員 部活動の受け皿が広がっていることはうれしく思います。子ども達にとって様々な新しい選択肢があることは非常に良いことと考えます。その中で、課題として指導者の確保と支援がありますので、何とか持続性のある体制作りができるの良いと思います。

上田職務代理者 令和5年度から地域移行しているソフトボール、柔道男女、卓球男女、

## 令和5年度 第2回小浜市総合教育会議 会議録

バスケット男子の地域の指導者は教員の方が多いのでしょうか。それとも一般の方が多いのでしょうか。

事務局 ソフトボールは一般の指導者も教員もいます。柔道については、一般の指導者です。卓球は教員の割合が多いです。バスケットは一般の指導者のみです。

上田職務代理者 一般の指導者が指導するにあたり、他県において勝利至上主義の面から体罰等を受けた事例があると聞いたことがあります。小浜市ではそういったことは無いと思いますが、生徒に安全上の不安があった場合など、今後考えていく必要があると思いますが、いかがでしょうか。

事務局 基本的な指導方針はクラブにお任せすることとなりますが、指導者へは県主催の指導者講習等への参加を促すなど、生徒が不安にならないようにしていきたいと考えています。

上田職務代理者 文化系の部活動についてですが、吹奏楽部は学校内か学校外の他の施設で行うのでしょうか。

事務局 まだ決まっていません。吹奏楽部は楽器の移動が大変だと思いますので、関係者と相談していきたいと考えております。

上田職務代理者 文化部員が土日だけ運動部に入るということはあり得るのでしょうか。

事務局 はい、そういった自由な選択ができるということのも地域移行のメリットだと考えております。このようなメリットについても、しっかり周知していきたいと思います。

桂田委員 国県の補助がなくなった場合、保護者の負担軽減のための予算化についてはどう考えておられますか。

事務局 まだ具体的には決まっていません。

村上委員 部活動以外の団体が手を挙げていることをうれしく思います。広報4月号で広報するとありますが、各学校で実演してもらおうと良いと思います。実際に見える形で親御さんにも示してもらえると安心すると思います。初めてのことなのでできるだけわかりやすく周知していただきたいと思います。

事務局 チラシによる周知も含め積極的に広報したいと思います。

### (2) 1. 学校教育DXについて（協議）

市長 それでは次に、協議事項1「学校教育DX」について事務局から説明をお願いします。

<教育総務課説明>

市長 ただいま事務局から説明がありました。これにつきまして意見交換を行いたいと思います。ご意見、ご質問など何でも構いませんので、挙手のうえご発言をお願いします。

教育長 資料の最後のページにある来年度の学校教育方針案を、先日校長会に提案しました。今年度と比較して変更した箇所を赤字で記載しております。令和6年度を、実施質的な教育DX元年と位置付けたいと考えております。教育DXには3つのステップがあります。それは、デジタイゼーション、デジタルイゼーション、DXです。

まず、1つ目のデジタイゼーションとは、紙をデジタルに置き換える等、アナログの情報をデジタルのデータ形式に変換することです。2つ目のデジタルイゼーションは、業務そのものをICT化することです。この先にDXがあります。単なる改善でも改革でもなく、従来の業務のプロセスを根本的に見直し、再構築していくということです。1つ目、2つ目のステップを飛ばしては、3つ目のDXにはたどり着けません。一人一台端末が導入されて3年経ちますが、自治体間での格差が出てきています。

小浜市では4月からの推進体制を整えて学校のDXを進めていきます。各校の教頭をキーマンとして、まずは小浜市教頭会業務のDX化を進め、モデルとして示せるようになってもらいたいと考えています。それを各学校に持ち帰り浸透させていただきたいと思っております。もちろん、教頭全員がICTに秀でていたわけではありませんから、教頭会の中での凸凹を解決していく体験をすることで、学校に持ち帰った時の学校内の凸凹の解決に繋げてもらい、学校DXを進めていきたいと考えております。

上田委員長 春日井市は十数年前から取り組んでいるとのことですが、学習成績はどうなっているかわかりますか。

教育長 嶺南地区の教育長会で春日井市を視察した時に、ようやく全国平均を上回るようになってきたということを知りました。

坂下委員 これからの時代を生きていくには、このような力をつけていくは必須であると思います。校務DX化も含め、ぜひ強く推し進めてほしいと思います。

村上委員 先生方のPCの整備について、DXを進めるにあたり子ども以上に充実させていく必要があるのではないかと感じました。

教育長 国が実施したGIGAスクール構想では、教員のタブレットについては予算措置されていません。小浜市においては、児童生徒へ一人一台端末を導入してから小学校のPC教室を使用しなくなったため、PC教室のタブレットを教員用の一人一台端末として配備しました。

小浜市は春日井市とゴールは同じで、子どもたちが自分で学び考える力を身につけられる授業作りを目指しています。ただ、そのゴールに向かって何を使いどんな方法でそこに向かうかという点が春日井市とは大きく違っていました。春日井市はチャッ

## 令和5年度 第2回小浜市総合教育会議 会議録

トを活用しています。生徒指導上の問題やデメリットはないのかと尋ねたところ、問題は生じるが、それ以上にメリットが大きいとのことでした。子ども達はそのメリットを最大限生かす中で、「こんな便利なものを手放したくない」という思いから、デメリットとなる問題をどう解決すれば良いかを自ら考えられるようになってきているということです。

市長 ほかに、ご意見などはございませんか。ないようですので、協議はここまでとさせていただきます。

市長 本日本日予定の案件は以上ですが、その他として教育委員の皆さんから何かございましたらご発言ください。

市長 ないようですので、これをもちまして令和5年度第2回小浜市総合教育会議を終了します。長時間にわたり協議いただき、ありがとうございました。